

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	三次市立川地小学校		
学校長氏名	井上 佳代	栄養教諭氏名	藤岡 美和
職員数	16名	児童・生徒数	78名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・生活習慣の確立ができていない児童が少なくない。
- ・朝食はほとんどの児童が摂っているが、食事の内容には課題がある。
- ・給食を楽しみにしている児童が多いが、準備の時間は騒がしく落ち着きがない。
- ・好き嫌いがあり、食の細い児童が各学級に数人いる。
- ・正しい食事マナー（箸の持ち方・食器の持ち方・姿勢等）が定着している児童が少なくない。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・食に関する指導の目標：自らの健康を考えて行動できる児童を育成する。
- ・生活習慣の確立や食育の充実に向けて保護者や調理場と連携して取り組む。
- ・達成目標：茶碗・汁椀を持って食べる児童の割合を60%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 正しい食事マナーを身につける

・正しい箸使いを中心に、食事マナーを学習した。各学年で正しい箸使いや食事マナーについて指導をした。（第1学年，第3学年，第4学年，第6学年…学級活動で実施）（第2学年，第5学年…給食時間を中心に指導）【写真①】

・給食時間に、尾頭付きのイワシを正しいマナーで食べた。学習した正しい箸使いで、尾頭付きのイワシを食べ、骨の取り方等も併せて指導した。【写真②】

・全校朝会において、食事マナーの悪い見本を教職員が示し、正しい食事マナーについて学習した。【写真③】

【取組2】（テーマ） 望ましい栄養や食事のとり方を理解し自ら管理する能力を育成

・朝食作りや献立作りを通して、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を学習した。養護教諭と連携し、毎学期「元気を育てる生活づくり」を実施し、児童は就寝時刻や朝食の内容などを1週間記録した。家庭へは便りなどを通して生活習慣の改善を啓発するとともに、実施後にはコメントを記入した元気を育てる生活づくり表を返却した。

・6年生の家庭科「バランスのよいこんだてを考えよう」の単元では、4班に分かれて給食1食分の献立をたて、その献立をもとに調理実習を実施した。調理実習の結果を調理員宛ての報告書としてまとめ、翌々

月の給食で児童の考案した4つの献立を提供した。【写真④】

・朝会において、朝食の重要性について学習し、自分で作ることでできる朝食メニューを考えて紹介した。

【写真⑤】

・学区の中学校では、バランスのよいお弁当作りと簡単な朝食作りについて学習し、栄養と食事のとり方を自ら管理していく能力が大切なことを伝えた。【写真⑥】



【取組 3】(テーマ) 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組

・3年生国語「すがたをかえる大豆」の単元と、総合的な学習の時間の「大豆づくり」において担任と連携し、三次の特産品である大豆について学習を深めた。国語では、資料提供や食品の加工について具体的に説明、指導をした。国語の時間に児童が書いた文章は、給食時間に全校児童の前で発表した。また、総合的な学習の時間では、児童の育てた大豆を使った豆腐作りを実施した。【写真⑦】

・5年生社会「わたしたちの生活と食料生産」の単元では、その日の給食を題材にした生鮮食料品について学習をした。【写真⑧⑨】



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

・広島食育ウィークには、三次市版ひろしま給食統一メニューを給食で実施した。三次市では「三次市食育だより」を作成・配付し、「ひろしま給食」と三次市の郷土食である「わに」について紹介した。

・学区の中学校では、電子レンジで簡単に作ることができる食事のひとつとして「広島名物たっぷり 塩レモン焼きそば」をデモンストレーションで紹介した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

・茶碗・汁椀を持って食べる児童の割合は、年度当初は56.4%であったが、1月時点での達成値は64.0%

であり向上した。具体的な指導を実施した2学期以降は達成値が60～69%であり、給食時間の机間指導や、各学年の実態に応じた授業の成果があったと考えられる。

- ・給食時間中に大豆を箸でつまんで食べたり、魚の身をほぐしたりすることで、授業等で学んだことを実生活につなげることができた。また、年度当初から骨付きの魚を給食で提供し、併せて食べ方の指導を継続した。尾頭付きの魚を食べたときには、骨のとり方や、はずした骨の置き方などを実践できている児童が多くなった。

- ・「元気を育てる生活づくり表」において、高学年児童の反省で「元気を育てる生活づくりをはじめから9:30～10:00の間で寝られるようになり、バランスよく食事ができるようになった。」「朝ごはんをバランス良く食べられなかったので、今回はバランスよく食べようと思いました。」などの記述があり、「朝食を摂ること」から「バランスのよい朝食を摂ること」へ意識が変容していることがわかる。

- ・朝会等で紹介した朝食メニューを「日曜日に作って食べた。」「自分で作って家族に食べてもらった。」など、朝食作りを実践した児童がいた。

- ・学級担任の協力で様々な教科に関わることができた。3年生は、自分たちの育てている大豆をきっかけに文章を書くことへ積極的になったり、全校児童の前で発表することで達成感を得られたりしたようである。また、給食時には国語の時間に調べた食品を探しながら食べたり、大豆を箸で一つずつ摘みながら食べようとしたりするなど、食への関心が高まる児童が増えた。

【課題】

- ・茶碗・汁椀を持って食べる児童の割合は目標を達成しているものの、茶碗・汁椀を持って食べることができない児童が固定化している。また、正しい箸の持ち方ができない児童もいる。

- ・望ましい栄養や食事のとり方を理解し、知識として身につけている児童は多いが、実践できている児童は少ない。「元気を育てる生活づくり表」の結果から、バランスのよい朝食を摂ろうとする児童がいる一方、朝食の内容が主食（おにぎり、パン、菓子パンなど）だけ、副菜だけの児童もおり固定化している。

- ・本年度は多くの教科に関わることができたが、学年によって栄養教諭の関わる授業数に偏りがあった。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・正しい食事マナーが定着していない児童へは、給食時間を中心に引き続き個別指導を実施する。授業や朝会での指導後は食事マナーを意識する児童が多くみられたことから、個別指導と並行して全体指導を実施し、学校全体で食事マナーに対する意識を高めていく。

- ・本年度は、食事の姿勢や茶碗・汁椀を持って食べることを中心に指導をしてきたが、来年度は箸の持ち方を中心に指導をしていく。

- ・望ましい栄養や食事のとり方に対する意識は個人差が大きく、家庭の影響も大きいと考えられる。今後は、給食試食会などで生活習慣等について啓発するとともに、給食日より定期的に情報発信をし家庭と連携していきたい。児童には引き続き教科指導や朝会指導を実施する。

- ・食に関する指導を充実させるために、「〇月には食べる姿勢の話を、〇学年で実施する」など具体的な年間計画をたてて実践していく。学級担任との連携を密にし、計画した授業が実践できるようにスケジュールの調整や授業準備に努める。